

## Vol,8 なぜビタミンと呼ばれるか？

- 今まで、Vol,1 ビタミンC
- Vol,2 ビタミンE
- Vol,3 ビタミンD
- Vol,4 ビタミンB群
- Vol,5 ビタミンA
- Vol,6 ビタミンK
- Vol,7 葉酸（ビタミンM）

と書いてきましたが、効果はわかったがなぜビタミンと呼ばれるのかが知りたいと要望がありました。今回はビタミン発見の歴史です。

ビタミンを人類で最初に発見したのは、日本人の鈴木梅太郎（東大教授）です。彼の研究論文がドイツ語に翻訳される際、「これは新しい栄養素である」という一行が訳されなかったため、世界に広まりませんでした。



1年後カジミール・フンクが同じく米ぬかから抽出し、成分の中にアミンの性質があったため、「生命のアミン」という意味で「生命(Vita)」「アミン(Amine)」「Vitamine (ビタミン)」と名づけました。



2年後、バター、卵黄の脂肪の中から成分を発見したけど、アミンの構造ではありませんでした。それで「脂溶性A」「水溶性B」と命名します。



柑橘系果物の中から成分を抽出に成功。でもアミンの化合物ではなかったのが発見者ドラモンントが、ビタミンの発音はそのままで若干スペルを変更すること (Vitamin) を提案、発見したのをビタミンCと命名します。同時に「脂溶性A」をビタミンA、「水溶性B」をビタミンBと命名しました。



その後、幾つか見つかり、仮称としてD, E, Fと命名します。ビタミンBに関しては、非常によく似た性質をもつグループがわかり、ビタミンB群として、B1, B2, と順に名づけられました。



さらにその後、ビタミンFは間違いがわかり、ビタミンHはB群であることがわかり消滅します。また構造の解読が早くなり、B群に属する仮称ビタミンが一般的でないビタミン（葉酸やナイアシン）などもあります。現在ビタミンと確認されているのは13種類になります。

参照文献「ウィキペディア」「ビタミンとは何か」